

授業概要

経済学は非常に大きな学問体系をなしています。この講義では、私たちの日々の暮らしや生活を支える活動（経済活動とよんでいます）の担い手である企業を対象とした経済学、つまり企業経済学を解説します。但し、その中身は、理論的・抽象的なものではなく、日本企業を対象とした具体的な説明です。グローバル時代の今日における日本企業の活動を理解するために、日本企業の海外進出、外国での活動について、第2次大戦前から21世紀の現在までを講義します。

授業計画

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | はじめに一企業経済学を学ぶ |
| 第2回 | 企業経済学と日本企業の海外進出 |
| 第3回 | 第2次大戦前の日本企業のアメリカ進出（1）—基本的特徴 |
| 第4回 | 第2次大戦前の日本企業のアメリカ進出（2）—商社活動の重要性 |
| 第5回 | 第2次大戦前の日本企業のアメリカ進出（3）—背景要因 |
| 第6回 | 第2次大戦後の日本企業のアメリカ進出—1950年代後半以降 |
| 第7回 | 日本的生産方式の国際的な優位性 |
| 第8回 | 日本的生産方式とアメリカ的生産方式（1）—サプライヤーとの取引関係 |
| 第9回 | 日本的生産方式とアメリカ的生産方式（2）—日本的系列方式の特徴 |
| 第10回 | 中国経済の「改革開放体制」への移行と日本企業の対中進出 |
| 第11回 | 中国の「社会主義市場経済」と日本企業の現地活動の進展 |
| 第12回 | 21世紀初頭以降の中国経済の変貌と日本企業 |
| 第13回 | 現段階の中国における日本企業の活動（1）—電機・自動車産業 |
| 第14回 | 現段階の中国における日本企業の活動（2）—産業財産業 |
| 第15回 | 中国における日本企業の今後の課題 |
| 第16回 | 期末試験 |

到達目標

- ① 経済活動とその担い手である企業について具体的な事実を踏まえて理解します。
- ② 日本の経済と企業の特徴などについて外国（アメリカ、中国）との対比で学びます。
- ③ 今日の経済と企業について、自ら学ぶべき問題や課題を発見出来るようになることを目標とします。

履修上の注意

- ① 各章・節の要点を記載したレジュメ、および資料（統計、図表など）を出席者に配布します。講義はレジュメに沿って、その内容を解説しながら進めます。なお、毎週、出席者全員にその日の授業についての「質問・意見」を提出してもらいます。その中で特に重要と思われた疑問・論点などを選択して、翌週の講義の際に回答ないし補足説明を行います。
 （2）病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。病欠、遅刻（電車の遅延などによる）の場合は証明書を提出してください。

予習・復習

講義に出席するに先立ちレジュメを読み、予習してください（第1回講義を除く）。講義中はできるだけ多くノート（メモ）を取り、レジュメに書かれた要点と合わせてよく読み直し、復習してください。

評価方法

期末試験 80%、授業への参加（「質問・意見」の提出とその内容）20%、によって評価します。

テキスト

教科書は使いません。私が作成したレジュメ、資料を用いて解説します。参考文献は講義中に紹介します。

授業概要

経済学については高校時代にほとんど習っていない。また大学で習う経済学は、高校の「政治経済」とはずいぶん異なる。この授業では、経済とは何か、経済学とはどのような学問かを知り、資本主義経済の歴史と経済学の理論の基礎を学ぶと同時に、経済に関する時事問題への関心を深めることを目標とする。

授業計画

| | |
|------|-------------|
| 第1回 | 経済とは何か |
| 第2回 | 社会と貨幣 |
| 第3回 | 資本主義の生成 |
| 第4回 | 資本主義の確立 |
| 第5回 | アダム・スミスの経済学 |
| 第6回 | 貨幣の価値尺度機能 |
| 第7回 | 貨幣の流通手段機能 |
| 第8回 | 授業内の中間試験 |
| 第9回 | 富としての貨幣 |
| 第10回 | 貨幣数量説 |
| 第11回 | アベノミクスの経済学 |
| 第12回 | 資本主義の変容 |
| 第13回 | 国際通貨システムの変容 |
| 第14回 | 紙幣と金 |
| 第15回 | 復習 |
| 第16回 | 定期試験 |

到達目標

経済学とはどのような学問かについてのイメージを確立すること。
 経済関連のニュースがある程度理解できるようになること。
 資本主義経済の特徴を理解すること。

履修上の注意

板書は多い方なのでノートを中心に学習すること。

予習・復習

授業ノートの整理をしておくこと。

評価方法

定期試験・中間試験・レポートによる。定期試験 60%、中間試験 30%、レポート 10%の配点とする。
 ただし変更する場合もある。

テキスト

特になし。必要に応じて授業中に指示する。